

C-24 被服設計圖の考察(第15報)

岡山就実短大家政 藤井美枝子

目的 生体機能とアームホール及び手の方向による図学展開について——人体の平面展開は、体表とその動き・移動・収縮・伸展を理解し、複雑な動きをどこに、どのように平面展開し図学設計図となすかがポイントであると考えます。

今回は小さいけれど大きく動く手のつけ根(アームホール)と、手の方向に焦点をあてました。

方法 手のつけ根(腋軸)の前後の部位・方向・動作による動きの分量、いわゆる伸展・収縮・移動量等を調べました。また、体型による手の方向と、その形を考察しました。

結果 生体機構によるアームホールの展開・構成、アームホールのゆるみ量及び、手のシルエットによる展開を5種類に分類し、図学展開しました。